

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5050212号
(P5050212)

(45) 発行日 平成24年10月17日(2012.10.17)

(24) 登録日 平成24年8月3日(2012.8.3)

(51) Int.Cl.	F I
A 4 1 D 1/06 (2006.01)	A 4 1 D 1/06 5 0 2 C
A 4 1 C 1/00 (2006.01)	A 4 1 D 1/06 Z
	A 4 1 C 1/00 F

請求項の数 6 (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2010-3102 (P2010-3102)	(73) 特許権者	510335546
(22) 出願日	平成22年1月8日(2010.1.8)		チョ ウンヒョ
(62) 分割の表示	特願2006-309912 (P2006-309912) の分割		大韓民国 ギョンギード アニョンーシ マナンーグ ソクス ２ードン ４ １ ２ チョンガング プラス ウィン １ １ ０ ３
原出願日	平成18年11月16日(2006.11.16)	(74) 代理人	100082164
(65) 公開番号	特開2010-106431 (P2010-106431A)		弁理士 小堀 益
(43) 公開日	平成22年5月13日(2010.5.13)	(74) 代理人	100105577
審査請求日	平成22年2月4日(2010.2.4)		弁理士 堤 隆人
(31) 優先権主張番号	20-2005-0032369	(72) 発明者	李 性 宇
(32) 優先日	平成17年11月16日(2005.11.16)		大韓民国 京畿道 果川市 中央洞 6 5 番地 住公アパート １ ０ ０ 9 棟 3 0 2 号
(33) 優先権主張国	韓国 (KR)		
(31) 優先権主張番号	20-2006-0006177		
(32) 優先日	平成18年3月8日(2006.3.8)		
(33) 優先権主張国	韓国 (KR)	審査官	西本 浩司

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 体型補正機能を持つズボン

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ズボンと、

前記ズボンの内部に備えられ、その杵部がズボンに部分的に固定された状態で、ズボン着用者の臀部を弾力的に支持する弾力布と、

前記弾力布に備えられ、弾力布に厚みを提供して、ズボンの外部に表れる着用者の臀部にボリューム感を提供する一対のパッドと、を備え、

前記パッドを弾力布に位置させるように、弾力布には、パッドを収容するポケット部が設けられ、

かつ、前記弾力布は、

その両側端部は、ズボン両側の裁縫部に固定され、上端部は、ズボンのベルト部に固定され、下端部の中央は、ズボンのクロッチ部に固定されることを特徴とする体型補正機能を持つズボン。

【請求項 2】

前記ポケット部は、必要時にパッドをポケット部の外部に取り出せるように、開放口を通じて開放されたことを特徴とする請求項 1 に記載の体型補正機能を持つズボン。

【請求項 3】

前記弾力布には、

ズボンを着用した着用者の臀部を上を支え上げると共に、中央に引きつけるヒップ補正バンドがさらに備えられたことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の体型補正機能を持

つズボン。

【請求項 4】

前記弾力布には、

ズボンを着用した着用者のズボンの外部に表れる太腿ラインがスリムに見えるように、太腿を加圧補正する太腿補正バンドがさらに備えられたことを特徴とする請求項 3 に記載の体型補正機能を持つズボン。

【請求項 5】

前記弾力布には、

ズボンを着用した着用者のズボンの外部に表れる太腿ラインがスリムに見えるように、太腿を加圧補正する太腿補正バンドがさらに備えられたことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の体型補正機能を持つズボン。

10

【請求項 6】

前記ヒップ補正バンドの側部には、ヒップ補正バンドに固定された状態で前記ズボン両側の裁縫部に固定され、ズボン着用者の臀部を中央に引きつける第 2 加圧バンドがさらに備えられたことを特徴とする請求項 3 に記載の体型補正機能を持つズボン。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、体型補正機能を持つズボンに関する。

【背景技術】

20

【0002】

最近、自分自身の気分や好みを重要視する生活パターンを持つ女性が増加するにつれて、より快適な感じと自分なりのスタイルを満足させる多彩な服が開発及びアピールされている。このような服は、服の基本機能を有すると同時に、美しくて魅力的なボディラインを見せたい女性の願望を充足させる役割を行う。

【0003】

一方、着用者の体型補正を主目的とする服は、主にアンダーウェアであり、ボディラインを整理してスタイルを活かすことはもとより、究極的には上着のスタイルを引き立たせる。例えば、ガードル (girdle) は、着用者の (皮下脂肪を正しい位置に分配させることによって) 垂れた臀部を上を支え上げるか、太腿をスリムに引き締めることによって、例えば、からだにピッタリとフィットするジーンズを着ても、臀部の部位を魅力的でスリムに見せ、自信のある生活を送れるようにする。

30

【0004】

ところが、従来のガードルは、身体を圧迫するものであり、ほとんど伸縮性がないので、着替えが非常に不便であり、臀部や太腿部位を必要以上にひどく引き締めて血液循環を阻害することもある。また、垂れた臀部をある程度支え上げるか、太腿をスリムに引き締めることはできるが、臀部自体が小さくて貧弱な人の場合、臀部をさらに大きくてピチピチしたものにするなどの補正効果を提供できないという限界があった。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

40

【0005】

本発明は、前記問題点に鑑みてなされたものであり、臀部の形状を補正するための弾力布がズボン内部に一体型に固定されているので、既存のガードルを着用する方式ではなく、ズボンだけ履けばヒップラインの補正がなされて便利であり、一般的なガードルとは異なって腹部を除外して臀部だけを加圧するため、腹部部位の血液循環を阻害せずに不快な感じを与えず、着替えに不便でなく、特にパッドを適用する場合、ズボンの外部に表れるヒップラインをさらに弾力あって魅力的に演出できる体型補正機能を持つズボンを提供するところに目的がある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

50

前記目的を達成するために本発明は、ズボンと、前記ズボンの内部に備えられ、その枠部がズボンに部分的に固定された状態で、ズボン着用者の臀部を弾力的に支持する弾力布と、前記弾力布に備えられ、弾力布に厚みを提供して、ズボンの外部に表れる着用者の臀部にボリューム感を提供する一対のパッドと、を備え、前記パッドを弾力布に位置させるように、弾力布には、パッドを収容するポケット部が設けられ、かつ、前記弾力布は、その両側端部は、ズボン両側の裁縫部に固定され、上端部は、ズボンのベルト部に固定され、下端部の中央は、ズボンのクロッチ部に固定されることを特徴とする。

【0008】

また、前記ポケット部は、必要時にパッドをポケット部の外部に取り出せるように、開放口を通じて開放されたことを特徴とする。

10

【0010】

また、前記弾力布には、ズボンを着用した着用者の臀部を上を支え上げると共に、中央に引きつけるヒップ補正バンドがさらに備えられたことを特徴とする。

【0011】

また、前記弾力布には、ズボンを着用した着用者のズボンの外部に表れる太腿ラインがスリムに見えるように、太腿を加圧補正する太腿補正バンドがさらに備えられたことを特徴とする。

【0012】

また、前記ヒップ補正バンドの側部には、ヒップ補正バンドに固定された状態で前記ズボン両側の裁縫部に固定され、ズボン着用者の臀部を中央に引きつける第2加圧バンドがさらに備えられたことを特徴とする。

20

【発明の効果】

【0013】

本発明による体型補正機能を持つズボンは、臀部の形を補正するための弾力布がズボン内部に一体型に固定されているので、既存のガードルを着用する方式ではなく、ズボンだけ履けばヒップラインの補正がなされて便利であり、一般的なガードルとは異なって腹部を除外して臀部だけを加圧するため、腹部部位の血液循環を阻害せずに不快な感じを与えず、着替えに不便でなく、特にパッドを適用する場合、ズボンの外部に表れるヒップラインをさらに弾力があり魅力的に演出できる。

【図面の簡単な説明】

30

【0014】

【図1】本発明の第1参考形態による体型補正機能を持つズボンの内部構成を示す分解斜視図である。

【図2】前記図1に図示したガードルの作用を説明するために示した図面である。

【図3】本発明の第2参考形態による体型補正機能を持つズボンの内部構成を示す分解斜視図である。

【図4】前記図3に図示したガードルの作用を説明するために示した図面である。

【図5】本発明の第3参考形態による体型補正機能を持つズボンの内部構成を図示した分解斜視図である。

【図6】前記図5に図示したガードルの作用を説明するために示した図面である。

40

【図7】本発明の第4参考形態による体型補正機能を持つズボンの内部構成を図示した分解斜視図である。

【図8】前記図7に図示したガードルの作用を説明するために示した図面である。

【図9】本発明の実施形態による体型補正機能を持つズボンの内部構成を示す分解斜視図である。

【図10】前記図9に図示したガードルを別途に示した斜視図である。

【図11】前記図10に図示したガードルの細部構成及び作用を説明するために示す図面である。

【図12】前記図10に図示したガードルの細部構成及び作用を説明するために示す図面である。

50

【発明を実施するための形態】**【0015】**

以下、本発明による一つの実施形態を添付された図面を参照してさらに詳細に説明する。なお、図1～図8は参考形態を示し、図9～図12が本願発明の実施形態を示す。

【0016】

図1は、本発明の第1参考形態による体型補正機能を持つズボンの内部構成を示す分解斜視図である。

【0017】

図面を参照すれば、本発明の第1参考形態による体型補正機能を持つズボンは、ズボン11と、前記ズボン11の内部に固定されて一体をなして、着用者の臀部の部位に弾力的に密着する弾力布17aと、前記弾力布17aの外側面所定位置に固定され、着用者の臀部を上を支え上げるヒップアップバンド17eとから形成される。前記弾力布17aと、弾力布17aに裁縫されるヒップアップバンド17eは、ズボンと共に着用者の臀部体型を補正するものであり、本説明では、これらを合わせてガードル17と称する。

10

【0018】

前記ズボン11は、一般的な普通のズボンであり、裁縫を通じて結合される前部11aと後部11bとベルト部11cとを持つ。図面符号13は、前部11aと後部11bとを裁縫することで作られた裁縫部である。前記ベルト部11cは、着用者の腰を取り囲む部位であり、裁縫された状態の前部11a、後部11bの上端部に裁縫結合する。さらに、図面符号15は、ポケット用袋である。

20

【0019】

一方、前記ガードル17は、（臀部をその中に取り入れる）従来の一般的なガードルとは異なって、臀部の後で臀部の部位のみをカバーする。したがって、例えば、前記ガードル17をズボン11から分離したとしても、ガードル17のみを着用することはできない。

【0020】

前記ガードル17をなす弾力布17aは、復元性を持つ伸縮性生地、いわゆる、ツーウェイ生地やこれと類似した性質の他の生地で作製される。前記弾力布17aの大きさは、ズボンサイズによって変わるということはない。

【0021】

前記弾力布17aの上端部は、上部縫い込み部17bであり、ズボンのベルト部11cと後部11bとの結合部間に挟まれて裁縫される。また、弾力布17aの両側端部の側部縫い込み部17cは、ズボンの裁縫部13に結合する。さらに、図面には表示されていないが、前記弾力布の中央下端部は、ズボンのクロッチ部13aに裁縫結合する。

30

【0022】

結局、第1参考形態のズボンにおいて、着用者の臀部は、前部11aと弾力布17aとの間で弾力的に引き締められる。もちろん、ズボンがタイトな場合、ガードル17が後部11bに密着するため、臀部の輪郭は、ガードル17と後部11bを通じて外部に表れる。

【0023】

また、前記弾力布17aの中央部には、ゴム系裁縫部17dが位置する。前記ゴム系裁縫部17dは、公知のゴム系（ゴムで作られた裁縫用系）で、弾力布17aの中央部を裁縫したものである。公知の事実のように、ゴム系は弾力性を持つので（弾力布17a自体の弾力性に自身の弾力性を追加して）、弾力布17aを着用者の臀部にさらに安定的に密着させる。

40

【0024】

特に、前記ゴム系裁縫部17dは、本発明のズボンを購入して着用する人の臀部サイズが少しずつ異なるとしても、座ったり立つ時、またはその他の活動時、常に一定の密着感を提供して心理的に安らぎを与える。

【0025】

50

一方、前記ヒップアップバンド１７eは、臀部を図２の矢印a方向に支え上げて中央に引きつけるものであり、非伸縮性繊維から形成される。例えば、非伸縮性トリコット繊維で製作できる。または、通気性を考慮してネット状の繊維で製作することもできる。

【００２６】

ところで、前記ヒップアップバンド１７eは、図２に示したように、弾力布１７aの中心部を基準に左右対称をなしつつ、臀部を矢印a方向に引き上げる。前記ヒップアップバンド１７eにより（本実施形態のズボンを着用することによって）、平常時垂れていた臀部がヒップアップされて、弾力性のあるピチピチしたヒップラインを演出できる。

【００２７】

図２は、前記図１に図示したガードルの作用を説明するために示した図面である。

10

【００２８】

図示したように、ガードル１７をなす弾力布１７aが着用者の臀部Aに密着した状態で、ヒップアップバンド１７eが臀部の下方部位を矢印a方向に上向き支持している。前記ヒップアップバンド１７eの曲率や幅などの形状は、場合によっていくらかでも変わりうるということは言うまでもない。

【００２９】

図３は、本発明の第２参考形態による体型補正機能を持つズボンの内部構成を示す分解斜視図であり、図４は、前記図３に図示したガードルを別途に示した図面である。

【００３０】

以下、前記した図面符号と同じ図面符号は、同一機能の同じ部材を意味し、それに関する反復された説明は省略する。

20

【００３１】

図３及び図４を参照すれば、第２参考形態による体型補正機能を持つズボンに適用されるガードル１９には、前記ヒップアップバンド１７e以外に１対の支持バンド１９aがさらに備えられていることが分かる。前記支持バンド１９aは、その下端がヒップアップバンド１７eの両端部に連結固定された状態で、上部縫い込み部１７bに向かって上方に延びた非伸縮性生地部材である。前記ヒップアップバンド１７eと支持バンド１９aとは、その隣接端部が裁縫を通じて相互結合されている。前記ヒップアップバンド１７eと支持バンド１９aとは、同じ種類の非伸縮性繊維で製作でき、通風を考慮して通風性を持つメッシュ生地を適用できる。

30

【００３２】

前記支持バンド１９aは、図４に示したように、弾力布１７aの両側部に対称に固定されて、着用者の臀部Aを矢印b方向に押さえる。前記支持バンド１９aの作用により、臀部が脇に広がらず（後から見た時）、臀部が広く見えることを防止することができる。

【００３３】

図５は、本発明の第３参考形態による体型補正機能を持つズボンの内部構成を図示した分解斜視図であり、図６は、前記図５に図示したガードルを別途に示した図面である。

【００３４】

図５及び図６を参照すれば、第３実施形態による体型補正機能を持つズボンに備えられるガードル２１には、第２実施形態のガードル（図３の１９）と比べて、加圧バンド２１aがさらに備えられていることが分かる。

40

【００３５】

前記加圧バンド２１aは、弾力布１７aの両側部下端に裁縫固定されたものであり、着用者の太腿Bの外側部を矢印c方向に押さえて支持する。人によって臀部Aの両側部を矢印b方向に押さえれば、太腿の外側部が相対的に突き出る場合があるが、前記加圧バンド２１aが、この突き出る現象を防止する。すなわち、前記加圧バンド２１aにより着用者の太腿がスリムに見える。前記加圧バンド２１aとして、ヒップアップバンド１７eと同じ種類の布を適用する。さらに、場合によって、前記加圧バンド２１aの形状を変更してヒップアップバンド１７eに連結固定させることもある。

【００３６】

50

図 7 は、本発明の第 4 参考形態による体型補正機能を持つズボンの内部構成を図示した分解斜視図であり、図 8 は、前記図 7 に図示したガードルの作用を説明するために示した図面である。

【 0 0 3 7 】

図 7 及び図 8 に示したように、第 4 参考形態による体型補正機能を持つズボンでのガードル 2 3 には (第 3 参考形態と比べて)、引張りバンド 2 3 b がさらに備えられている。前記引張りバンド 2 3 b は、その一端部がヒップアップバンド 1 7 e の両端部に固定され、前方上部に延びたものであり、延長端部は、ズボンのベルト部 1 1 c 内に挿入固定される。

【 0 0 3 8 】

前記引張りバンド 2 3 b は、伸縮性を持ってヒップアップバンド 1 7 e を矢印 c 方向に引き上げる。特に、前記引張りバンド 2 3 b は、弾力布 1 7 a には接せず、ただし、その延長端部がズボンのベルト部 1 1 c に固定されて、弾力布 1 7 a が着用者の臀部にさらに弾力的に接して、座ったり立ったり、または運動する時、弾力布 1 7 a を常に臀部に密着させて、心理的な満足感を持つことができる。

【 0 0 3 9 】

図 9 は、本発明の実施形態による体型補正機能を持つズボンを一部切開して示した斜視図である。

【 0 0 4 0 】

図面を参照すれば、本実施形態による体型補正機能を持つズボンは、ズボン 1 1 と、前記ズボン 1 1 の内部に固定されて、着用者の臀部の部位を弾力的に支え上げて引きつけるガードル 2 5 とで構成される。

【 0 0 4 1 】

前記ガードル 2 5 は、第 1 参考形態ないし第 4 参考形態でのガードルと同様に、(臀部をその中に取り入れる) 従来の一般的なガードルとは異なって、臀部の後で臀部の部位のみをカバーし、弾力的に支持するものである。したがって、例えば、前記ガードル 2 5 をズボン 1 1 から分離したとしても、ガードル 2 5 のみを着用することはできない。

【 0 0 4 2 】

前記ガードル 2 5 の両側の側部縫い込み部 2 5 c 及びクロッチ部は、前記ズボン 1 1 の裁縫部 1 3 に結合し、上部縫い込み部 2 5 b は、ベルト部 1 1 c の内部に挿入されてベルト部 1 1 c 内に裁縫される。結局、本実施形態のズボンにおいて、着用者の臀部は、前部 1 1 a とガードル 2 5 との間で弾力的に引き締められる。もちろん、ズボンがタイトな場合、ガードル 2 5 が後部 1 1 b に密着するため、臀部の輪郭は、ガードル 2 5 と後部を通じて外部に表れる。

【 0 0 4 3 】

また、前記ガードル 2 5 には、ヒップ補正バンド 2 5 d と加圧バンド 2 1 a (大腿補正バンド) と第 2 加圧バンド 2 5 p と弾力パッド (図 1 0 の 2 5 f) が備えられる。前記ヒップ補正バンド 2 5 d は、着用者の臀部を上部に支え上げると同時に中心に引きつけて、外部に表れる臀部のラインを魅力的に見えるようにする。

【 0 0 4 4 】

前記ヒップ補正バンド 2 5 d は、前記ヒップアップバンド 1 7 e と支持バンド 1 9 a との役割を同時に具現するものである。また、加圧バンド 2 1 a は、前記のように、着用者の太腿の外側部を押さえて太腿をスリムに見せるものである。さらに、前記第 2 加圧バンド 2 5 p は、ヒップ補正バンド 2 5 d と同じ材質から形成されたものであり、ヒップ補正バンド 2 5 d に裁縫固定された状態で、側部縫い込み部 2 5 c に延びる。前記第 2 加圧バンド 2 5 p は、ズボンの裁縫部 1 3 に結合して、ズボン着用者の臀部の両側部を押さえて、臀部の側部ラインが突き出ないようにしてボリューム感のあるヒップラインを演出する。

【 0 0 4 5 】

前記弾力パッド 2 5 f は、所定厚みを持つ弾性部材であり、着用者の臀部の後に位置し

10

20

30

40

50

て、臀部をさらにボリューム感のあるように演出する。このような弾力パッド 25 f は、臀部が多少貧弱な場合に使用するものであり、着用者の体型によっては使用しなくてもよい。前記弾力パッドとして、例えば、スポンジやラテックス類を例として挙げることができる。

【0046】

図 10 は、前記図 9 に図示したガードルを別途に示した斜視図である。

【0047】

図示したように、本実施形態のズボンに適用されるガードル 25 は、ズボンの内部に固定された状態で着用者の臀部に弾力的に密着する伸縮性弾力布 25 a と、帯状になって前記弾力布 25 a に裁縫されるヒップ補正バンド 25 d と、前記弾力布 25 a の両側端の下
10の片隅部に備えられる加圧バンド 21 a と、を備える。

【0048】

また、前記弾力布 25 a の中央部には、二つのポケット部 25 e が位置し、前記ポケット部 25 e の内部に前記した弾力パッド 25 f が備えられる。前記のような構成を持つガードル 25 の形状を、必要に応じていくらでも異なってデザインできるということは言うまでもない。

【0049】

ところで、前記ヒップ補正バンド 25 d は、図 11 の矢印 k 方向に臀部を支え上げて中央に引きつける。前記ヒップ補正バンド 25 d は、非伸縮性織物から形成される。例えば、非伸縮性トリコット織物で製作できる。または、通気性を考慮してネット状の織物を適
20用してもよい。

【0050】

前記ヒップ補正バンド 25 d は、図 11 に示したように、臀部を矢印 k 方向に引きつけると同時に、弾力布 25 a の中心部を基準に左右対称をなして、臀部を矢印 f 方向に引き上げる。前記ヒップ補正バンド 25 d により（本実施形態のズボンを着用することによって）、平常時に垂れている臀部が上げられて、弾力があってきれいなヒップラインを演出
30できる。

【0051】

一方、前記ポケット部 25 e は、弾力パッド 25 f を弾力布 25 a の該当部位に位置させるためのものである。前記ポケット部 25 e は、弾力布 25 a にポケット布 25 m を裁縫して構成される。すなわち、前記弾力布 25 a の外側面に所定形状のポケット布 25 m をあてがって、その枠部を裁縫することで、内部空間 25 n を持つポケットを製作できる。特に、前記ポケット布 25 m を弾力布 25 a に裁縫することで生じたポケット部裁縫線
35 25 g は、閉曲線をなさずに一部が開放されて、開放口 25 k を提供する。

【0052】

前記開放口 25 k は、ポケット部 25 e の内部空間 25 n を外部に開放する通路である。前記開放口 25 k を通じて、ポケット部 25 e から弾力パッド 25 f を取り出すこともでき、空いている内部空間 25 n に弾力パッド 25 f を挿入することもできる。前記開放口 25 k の大きさは、ポケット部 25 e の大きさによって適切に設計される。

【0053】

図 11 及び図 12 は、前記図 10 に図示したガードルの細部構成及び作用を説明するために示す図面である。

【0054】

図 11 を参照すれば、前記弾力布 25 a にヒップ補正バンド 25 d が対称に裁縫されていることが分かる。前記ヒップ補正バンド 25 d は、その内部領域に前記ポケット部 25 e を収容した状態で、着用者の臀部を矢印 f 方向に支え上げると共に、矢印 k 方向に引きつける役割を担う。

【0055】

前記ヒップ補正バンド 25 d の役割により、図 12 に示したように、臀部の下部が矢印 x 方向に引き締められ、臀部は矢印 z 方向に突出して、結果的にヒップラインが全体的に
50

上方に移動する。

【 0 0 5 6 】

さらに前記ポケット部 2 5 e に内蔵されている弾力パッド 2 5 f により、臀部の矢印 z 方向への突出量はさらに増加する。これは、ヒップ補正バンド 2 5 d で臀部を過度に引き締めて加圧しなくても（弾力パッド 2 5 f が適用されているかぎり）、臀部を所望の程度に十分に補正できるということを意味する。場合によって、前記ヒップ補正バンド 2 5 d だけでも十分な補正が可能ならば、前記弾力パッド 2 5 f を適用しなくてもよい。

【 0 0 5 7 】

前記弾力布 2 5 a の左右側下端に固定されている加圧バンド 2 1 a は、ヒップ補正バンド 2 5 d と同じ材質の織物で製作される。前記のように、加圧バンド 2 1 a は、着用者の太腿 B の外側部を矢印 c 方向に押さえて、ズボンの外部に表れる脚の厚みをスリムにする。

10

【 0 0 5 8 】

臀部及び太腿部位を前記のような方式で補正できるかぎり、前記ヒップ補正バンド 2 5 d 及び加圧バンド 2 1 a の形態はいくらでも変更できる。

【 0 0 5 9 】

結局、本実施形態による体型補正機能を持つズボンは、その内部に備えられているガードルが臀部を弾力加圧し、特に臀部のボリューム感を強調するので、ズボン着用者の臀部の部位をさらに魅力的に示すことはもとより、バランスの良い体型を持つようにする。

【 0 0 6 0 】

20

以上、本発明を具体的な実施形態を通じて詳細に説明したが、本発明は、前記実施形態に限定されず、本発明の技術的思想の範囲内で当業者によって色々な変形が可能である。

【 符号の説明 】

【 0 0 6 1 】

1 1 ズボン

1 1 a 前部

1 1 b 後部

1 1 c ベルト部

1 3 ズボンの裁縫部

1 3 a ズボンのクロッチ部

30

1 5 ポケット用袋

1 7 ガードル

1 7 a 弾力布

1 7 b 上部縫い込み部

1 7 c 側部縫い込み部

1 7 d ゴム系裁縫部

1 7 e ヒップアップバンド

1 9 ガードル

1 9 a 支持バンド

2 1 ガードル

40

2 1 a 加圧バンド（大腿補正バンド）

2 3 ガードル

2 3 b 引張りバンド

2 5 ガードル

2 5 a 弾力布

2 5 b 上部縫い込み部

2 5 c 側部縫い込み部

2 5 d ヒップ補正バンド

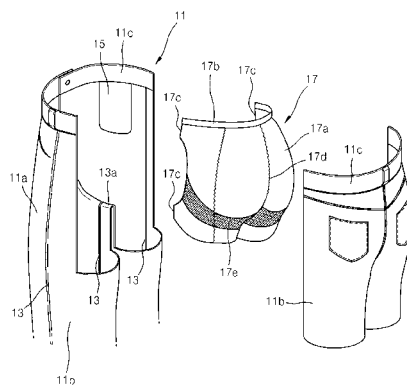
2 5 e ポケット部

2 5 f 弾力パッド

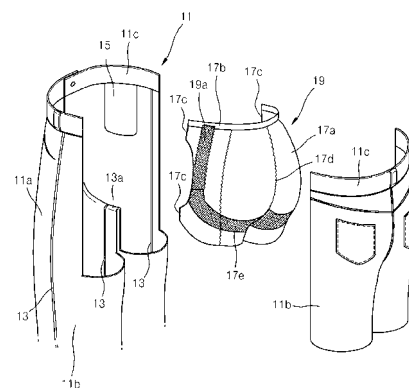
50

- 25 g ポケット部裁縫線
 25 k 開放口
 25 m ポケット布
 25 n 内部空間
 25 p 第2加圧バンド

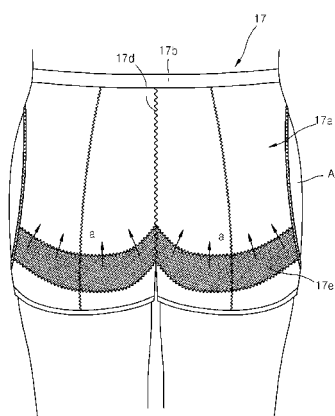
【図1】



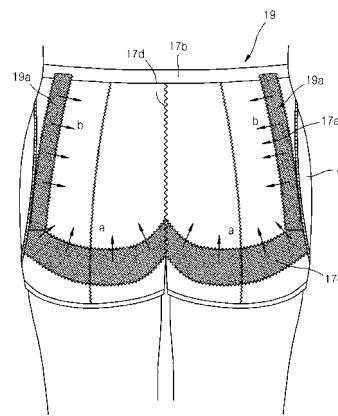
【図3】



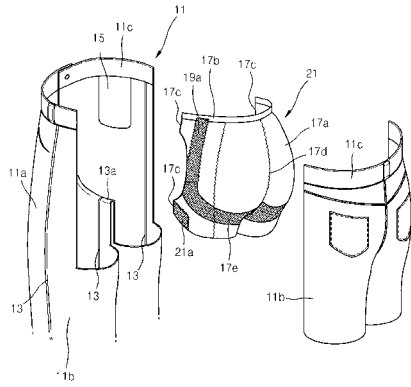
【図2】



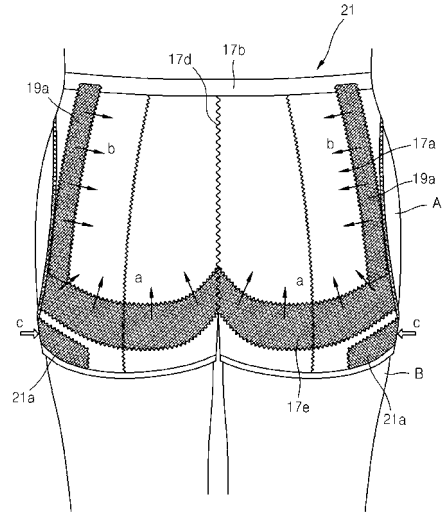
【図4】



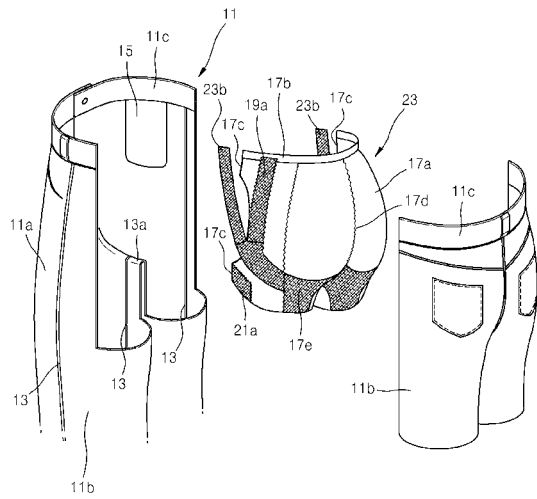
【図 5】



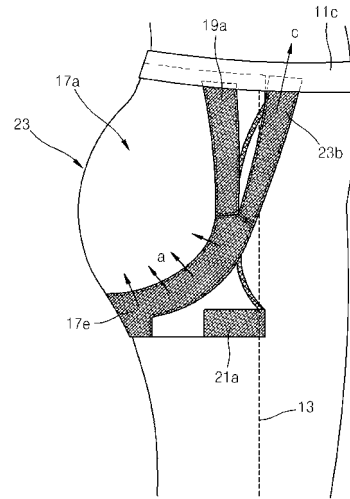
【図 6】



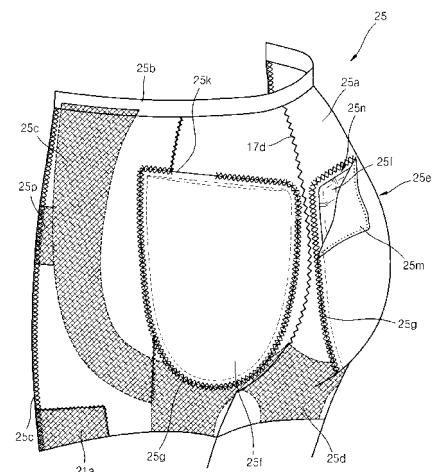
【図 7】



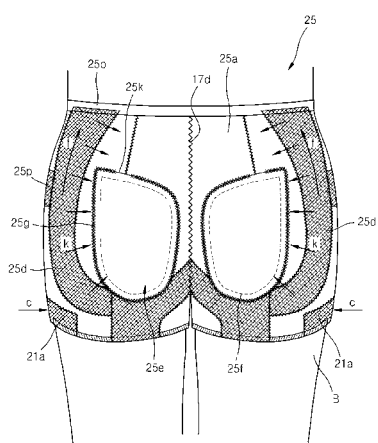
【図 8】



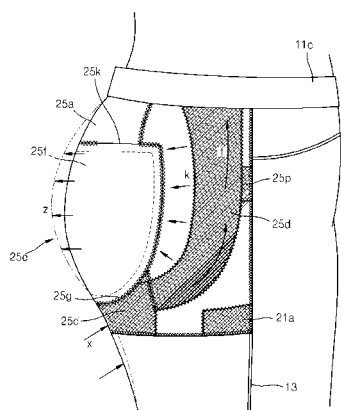
【 図 1 0 】



【 図 1 1 】



【圖 1 2】



フロントページの続き

(31)優先権主張番号 20-2006-0016686
(32)優先日 平成18年6月21日(2006.6.21)
(33)優先権主張国 韓国(KR)
(31)優先権主張番号 20-2006-0018674
(32)優先日 平成18年7月11日(2006.7.11)
(33)優先権主張国 韓国(KR)
(31)優先権主張番号 10-2006-0075694
(32)優先日 平成18年8月10日(2006.8.10)
(33)優先権主張国 韓国(KR)

(56)参考文献 特開2003-301311(JP,A)
特開2003-239125(JP,A)
登録実用新案第3080399(JP,U)
実開平06-012412(JP,U)
特開平08-060408(JP,A)
国際公開第2005/029987(WO,A1)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A41D 1/06
A41C 1/00 - 1/20